性フェロモン剤でシロイチモジヨトウの発生を抑える

［研究のねらい］

シロイチモジヨトウは薬剤感受性が低いため、農薬散布に依存した防除は困難です。そこで総合防除の一環として、合成性フェロモン剤（ビートアーミルア剤）を用いた雌雄間の交信撹乱による防除技術を確立します。

［研究の成果］

①５ha以上の面積で実施すると効果があります。

②処理直後は既交尾雌が産卵するので十分な効果が得られませんが、次世代幼虫の被害は減少します（図１）。

③エンドウ栽培では、処理後３週以降に播種する圃場で幼虫発生抑制効果が高くなります（図１）。

［成果の活用面・留意点］

①10aあたり150本を、シロイチモジヨトウ発生前に設置します。

②合成性フェロモン剤の有効期間は３か月間くらいです。

写真１　シロイチモジヨトウ幼虫

写真２　シロイチモジヨトウ成虫

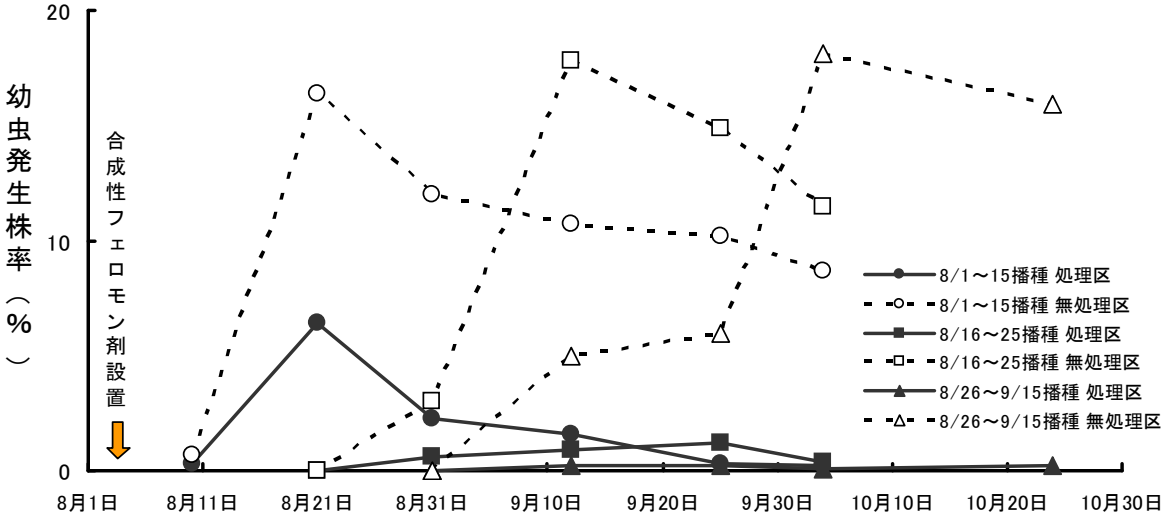

図１　エンドウ栽培における合成性フェロモン剤によるシロイチモジヨトウ幼虫発生抑制効果（1989年、印南町）

実施年度：昭和63～平成３年

担当者：東勝千代、矢野貞彦、森下正彦